

令和4年度 第1・2回 合同番組審議会 議事録

1 開催年月日

令和4年9月20日（火） 午後1時30分～午後3時00分ごろ

2 開催場所

砺波市太郎丸2-129 北日本新聞社砺波支社 会議室

3 委員の出席

委員総数 6名

出席委員数 5名

出席委員の氏名（◎委員長 ＊欠席）

- ◎ 山本 仁史 69歳、男、砺波市文化協会長
杉野 秀樹 64歳、男、砺波市美術館長
山田 智恵子 59歳、女、南砺市商工会女性部長
有限会社山田文華堂取締役
- * 久保田 晃克 45歳、男、リアール・プランニング株式会社代表取締役
富田 哲夫 42歳、男、前砺波商工会議所青年部会長
株式会社富田建築代表取締役
杉木 裕矢 38歳、男、となみ青年会議所理事長
杉木鉄工株式会社取締役

放送事業者側出席者名

- 河合 常晴 (株式会社エフエムとなみ 代表取締役社長)
古井 裕人 (株式会社エフエムとなみ 取締役業務部長)
高信 静枝 (株式会社エフエムとなみ 放送課長)

4 議事の概要

社長の挨拶に続き、山本委員長、杉野副委員長を選任し、放送番組についての説明の後協議へ。その後は、番組編成などについて意見交換を行った。

5 議題

1. 放送番組に対する評価

《対象番組》

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

・となみむかしさんぽ（2022年6月28日（日）放送）

平日昼の生放送「HAPPY SHOWER」内のゲストコーナー『しゃべって Happy』で毎月第4火曜日放送。放送時間は20分。

砺波市郷土資料館の学芸員をスタジオに招き、砺波にまつわる風俗・文化・伝統・伝承などを紹介していくコーナー。今回は、砺波郷土資料館学芸員の清水麻美さんに郷土資料館の「梅雨を楽しむ展」について聞いた。

（パーソナリティ：タナベマサキ）

・お茶の間トーク（2022年8月14日（日）放送）

毎週日曜放送のゲストトーク番組。

経済、芸術、スポーツ、芸能などとなみ野の様々な分野で活躍する方をゲストに招き、仕事からプライベートまでお話しを伺う番組。ゲストにまつわる曲やリクエスト曲を交えながら進行する1時間。

今回は小矢部市在住の Har Bin Ger Music トラックメーカー櫻井啓一さんをゲストに招き、打ち込みでの楽曲制作について聞いた。

（パーソナリティ：大道友萌子）

2. 番組編成に対するアドバイス

3. その他

6 審議内容（各委員の発言を要約して箇条書きで記載）

【杉野副委員長】

・「となみむかしさんぽ」について

番傘、蛇の目傘の説明から始まったので、難しくなるのではないかと思った。自分自身も絵画の説明をしたことがあるが、見えないものをリスナーに伝えるのは本当に難しい。今回も構造の違いなどは分かりにくい部分もあったが、蛇の目傘の名前の由来や江戸時代の価格などの話へと展開して行って、面白い話になったなど引き込まれていった。

展覧会のインフォメーションが最後にあったが、聞き逃すことがないように、何度か入れた方がいいのではないかと。

ゲストも聞き手も説明が長くならず、短い掛け合いが聴きやすかった。

・「お茶の間トーク」について

デジタルミュージックの音楽家がゲストということで、最初にさわりだけでも曲が聴けたら、どんなジャンルの音楽なのかイメージしやすいのではないかと思った。

都会から移住した人と思いきやこんで聴いていたら地元の人で、それが分かって聴き入った。プロフィール紹介は大切だなと感じた。

ラジオはまさに音の世界なので、打ち込み音楽の作曲方法をもっと細かく紹介しても面白いのではないかと思った。

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

【山田委員】

- ・「となみむかしさんぽ」について

番傘、蛇の目傘についてラジオでどう伝えるのかと思って聴いていたが、だんだんと想像ができあがってきた。実際に砺波郷土資料館まで行けば見られると思うと、見てみたくもなった。興味の引かれる内容だった。

初めて聴く人にもわかりやすいゲストの紹介があればいいと思った。

- ・「お茶の間トーク」について

以前ゲストとして出演したことがある。1時間は長いなと感じて収録に臨んだが、聴き手の和やかな雰囲気でも気楽に話すことができた。

今回のゲストも最初は緊張しているようだったが、だんだん打ち解けていって、最後にはゲストの人柄が伝わってきた。聴き手の引きだし方が上手いなと思った。

【富田委員】

- ・「となみむかしさんぽ」について

運転しながら聴いていたが、前半は和傘をイメージするのは難しいなと感じた。しかし、後半になると蓑の説明に「子泣きじじい」が出てきたり、知っている例えがあって興味を引かれた。

素材の特性の説明は、さすが学芸員という感じで分かりやすかった。

にぎやかしく、楽しいコーナーが昼時に合っているなと思った。

- ・「お茶の間トーク」について

このようなデジタル音楽は好きだなと思って聴いていたので、もう少しゲストの作った曲を聴きたかった。

専門用語もかみ砕いて説明していいと分かりやすかった。

車で聞くには少しトークのボリュームが小さく聞きづらかった。

同年代のゲストが、今どきの手法で音楽配信していることに刺激を受けた。

【杉木委員】

- ・「となみむかしさんぽ」について

砺波の伝統、伝承を紹介するコーナーなので、例えば祭りなど行事を紹介するときには、参加者の声を拾うのも面白いのではと感じた。

- ・「お茶の間トーク」について

ゲストの曲紹介で、「えざらい（側溝掃除）」をしていた時に思い浮かんだ曲だからタイトルを「Sarai」にしたという話があったが、こんな面白い人が小矢部にいるのかと思った。

すごく印象的だった。聞き手にひっかかる印象的な言葉があれば関心を引くと思う。

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

・番組編成について

聴き逃した番組を聴く方法はあるか？

もう1回聴きたい番組を募って、再放送するのも面白いのではないか。

【山本委員長】

・「となみむかしさんぽ」について

和傘の形状の説明を聴きながら、画像で見れたらいいなと思った。SNSを利用して事前に写真を見られるようにしておく、もっと興味を持ってもらえるのではないか。

最近SNSとの連動をよく耳にする、うまく活用できればいいと思う。

・「お茶の間トーク」について

冒頭に「こういう音楽です」と少し曲がかかれば分かりやすかったか。

番組を聴きながら、ゲストは曲を作るプロセスを楽しんでいるのかなと感じた。そこをもう少し掘り下げて曲作りの過程を詳しく紹介すれば、制作の面白さがもっと伝わったのではないかと思う。

ゲストが感じる興味や面白さとリスナーが受け取る面白さのギャップを埋めるのが聞き手の腕なのかもしれない。

・番組編成について

普段作業をするときにラジオを流しておくことが多い。内容を聴くというよりは、作業中も人の声がそばに欲しいからで、内容を覚えていないことも多い。番組の構成としては音楽三分の二、おしゃべり三分の一くらいが理想だが、これはあくまで私の聴き方と好きな番組構成で、どんな人が、どんな番組を求めているのか、どんな時に聴いているの、それが分からないと制作も難しいのではないか。

リスナーが求めるものをリサーチしながら、リスナーを意識した番組作りをしてほしい。

いいものを繰り返し放送するのも一つのやり方だと思う。

7 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

・「となみむかしさんぽ」

展覧会情報などは繰り返し伝えるよう指示した（令和4年9月22日）

・「お茶の間トーク」

ゲストに合わせた構成ができるよう、柔軟な番組作りを検討する（令和4年9月22日）

8 審議機関の答申又は意見の概要の公表

令和4年9月21日付北日本新聞朝刊に記事を掲載。

FMとなみのHP上でも議事録を公開。

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------

以上

社名	株式会社エフエムとなみ
----	-------------